

甲状腺機能亢進症および低下症は有意 ( $P<0.001$ ) に正常値と分離された。妊婦 ( $0.58\pm0.16$  ng/dl), 肝硬変症 ( $0.58\pm0.11$  ng/dl) ともにほぼ正常域に分布した。各種症例を含む57例で平衡透析法による free T<sub>4</sub> 測定値との間には良好な相関関係 ( $r=0.978$ ) が見られた。

#### 10. グルカゴンリアキットの基礎的研究

丹羽 正弘 (浜松医大・放)  
真坂美智子 (同・二内)  
金子 昌生 (同・放)

豚グルカゴン特異抗体, OAL-123 を用いたキットの基礎的検討は, 種々の施設で行なわれている。しかし低値 (100 pg/ml 以下) での再現性 (C.V.) が, 若干大きいと思われる報告が多い。今回, 同抗血清を用いた「グルカゴンキット第一」を使用する機会を得て, 再現性の向上に関して若干の検討を行った。

本キットの操作方法は使用書に従った。標準曲線の再現性, 希釈試験, 回収率試験は, ほぼ良好な成績であった。また正常範囲は,  $92\pm28$  pg/ml であった。しかし, 測定値の再現性は, 高値の検体 (約 300 pg/ml) で良好であったが, 低値の検体 (約 100 pg/ml) では, 同一アッセイおよび異なるアッセイ間で, それぞれ C.V. 9.5% および 19.7% と大きなバラツキを示した。そこで, スカッチャードの式より, 本キットの親和定数, 標識抗原濃度および抗血清濃度を測定すると, それぞれ  $2.6\times10^8$  M<sup>-1</sup>,  $9.7\times10^{10}$  M および  $30.0\times10^{10}$  M であり, マヒューの式により, 標識抗原濃度を減少させるか, 抗血清濃度を上昇させることによって, スタンダードカーブの %A の上昇が推定された。実際に, 標識抗原濃度を60%に希釈すると, スタンダードカーブの改善が見られ, このような操作により, 低値での再現性の向上が可能になると思われる。

#### 11. glucagon 測定の基礎的検討

金森 勇雄 松尾 定雄 樋口ちづ子  
安田 鋭介 市川 秀男 木村 得次  
(大垣市民病院特殊放射線センター)  
中野 哲 北村 公男 綿引 元  
武田 功 (同・第二内科)  
佐々木常雄 石口 恒男 (名大・放)

glucagon RIA kit (二抗体法, 沈澱安定剤法, Dai-ichi) について測定上に関する基礎的検討を行い次の結論を得た。

##### 1) 標準曲線の再現性

変動係数は 1.6~10.8% の間にあり良好であった。

##### 2) incubation 時間

1st incubation 24~48時間, 2nd, incubation 0~60分 で良好なる測定結果が得られる。

##### 3) incubation 温度

1st 2nd, incubation ともに 4°C にて良好なる測定結果が得られる。

4) 同時および日差再現性, 希釈試験, 回収試験の結果はいづれも良好であった。

5) 沈澱安定剤の効果はアスピレーター操作を容易にし, さらに incubation 時間の短縮が可能である。

6) 本キットと Unger 30K (Hoechst)キットとの相関係数は  $r=0.590$  であった。

7) 血清測定は血漿測定に比し高値を示した。相関係数は,  $r=0.843$  ( $p<0.01$ ), 回帰直線  $y=0.8214x+59.912$  であった。

8) 健常者の早朝空腹時 glucagon 値は血清で  $125.9\pm36.8$  pg/ml, 血漿は  $122.8\pm28.2$  pg/ml であった。

9) 正常妊婦の早朝空腹時の glucagon 値は血清で  $190.1\pm84.9$  pg/ml であった。

#### 12. Amerlex cortisol キットにおける尿中 cortisol 測定の可能性について

真坂美智子 吉見 輝也 (浜松医大・二内)

RIA による血中ホルモン濃度測定方法は簡略化, 短縮化の方向に進みつつある。今回われわれが検討した cortisol kit も, 微細な Amerlex 粒子に抗体を塗布した固相法の一つであるが, 本キットにおける精度, 信頼性